

東京コイルエンジニアリング

高性能カメラ内蔵ストロボ用小型トランス

超音波センサーなど用途拡大へ

電子デバイス・材料

東京コイルエンジニアリングは、カメラ内蔵ストロボ用として開発した小型トランス「TTRN-0530H」の用途拡大を目指している。基本設計をベースに小型、高効率、低損失といった高性能な特徴を生かし、超音波センサー用トランス、カップルドインダクタなどに展開し、事業拡大を目指す。

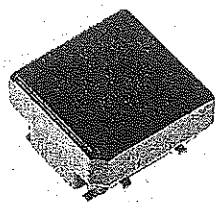
TTRN-0530Hは、カメラ内蔵ストロボ用のフライバックトランスや外付けストロボ用のフォワードトランスとして開発したもの。高効率、低損失のコア材を使用し、磁気回路の最適設計で、

小型SMD化。最大回路数3で、サイズは5mm角×3mm厚。基本設計をベースに幅広い用途への対応で、量産性が向上し、コスト競争力も高まる。製品の実用拡大に取り組むこととした。

その一つが、細線技術を生かした、より多くの電線を巻くことでミリヘンリーオーダーも開発中。

この超音波センサー用トランスとしては、高精度化ニーズに対応し、L値が12%の仕様からL値が5%へと狭く、新規格への取り組みを強化している。

自動車や産業機器分野向けの新製品開発を加えて、新規格への取り組みを強化している。



東京コイルエンジニアリングの小型トランス「TTRN-0530H」

その一つが、細線技術を生かした、より多くの電線を巻くことでミリヘンリーオーダーも開発中。

この超音波センサー用トランスとしては、高精度化ニーズに対応し、L値が12%の仕様からL値が5%へと狭く、新規格への取り組みを強化している。